

いつもの暮らしをもしもの支えに

平常時

災害時

でも
安心して心地よく
暮らせる住まい

登録〆切：2017年3月11日 作品受付〆切：2017年4月14日

私達が暮らすこの日本は災害が多発する地域です。東日本大震災を例に挙げるまでもなく、数十年から数百年ごとに起こる大地震、毎年各地に大きな爪痕を残す台風、近年多発する豪雨や竜巻など、次々に災害に見舞われてきました。その都度、人々は被災地に心を寄せ防災への関心が高まりますが、時が経つにつれ、災害への意識が徐々に薄れていきます。これはなぜなのでしょう。

それは、人々が悲しみや不安を抱き続けるよりも、無意識のうちに日々の営みの方に重点を置くようになるからではないでしょうか。そして、経験していない人にとって、災害時にどんな困難が起こるか、日常生活の中で現実性を持って思い描くのは、難しいことかもしれません。では、発想を変えてみましょう。

私たちが生活を送る『平常時』と『災害時』という2つの時間＝『Phase』について、この2つを分けることをやめてみるのです。災害が発生すると、身の周りのあらゆるモノと一緒に、平常のPhaseから災害のPhaseへと連続的に突入していきます。「ここに着目すると、私たちに必要なのは、防災のための特別な家ではなく、普段の暮らしが豊かで快適、かつ災害の際にも役に立つ住まいなのです。

住まい手が意識せずとも

「いつもの暮らしが

もしもの支えになる」

これからの住宅の在り方を考えたフェーズフリーな住まいを幅広く募集します。

審査員

建築設計
三井所清典
アルセッド建築研究所代表
日本建築士会連合会会長

防災工学
目黒公郎
東京大学教授
日本地震工学会会長

人間工学
松崎 元
千葉工業大学教授
プロダクトデザイナー

フェーズフリー建築協会理事
フェーズフリー総合研究所

